

## 平成28年度上京ワークハウス・すてっぷ糸屋 事業実績報告書

定員 40名（4月～35名。6月～40名）  
現員 39名（女性：22名 男性17名） 平均年齢34歳  
上京ワークハウス 23名 すてっぷ糸屋 15名  
述べ利用者数 8598人 開所日数の合計 254日 平均利用者数 34名

### H28年度を振り返って

H28年度を振り返ると、まず第一に浮かぶのは、7月に相模原で起こった入所者の殺傷事件です。元職員による障害のある人の尊厳を踏みにじるこの事件は、私たちを驚愕させました。仲間、家族の方々をはじめ関係者の動揺は大きく、作業所内でも、「ニュースを聞いて怖かった」などの声が聞かれました。どうしてこのような痛ましい事件が起こったのか。私たちはこのことを考え続けるとともに命の大切さを、多くの人たちに伝えていくように働きかけていかなければならないと決意を新たに思います。

また、熊本地震で被害にあった、きょうされん熊本支部への人的派遣やカンパにも取り組み、支援にあたりました。

私たちの法人では地域の中であたりまえに働き、生活することを大切に日中の活動とカフェやグループホームの実践を展開してきました。今年度は「笑顔輝く、いのちかがやく」をテーマに、わくわくフェスタや障害のある方への理解を広げるための映画会を開催しました。多くの方に足を運んで頂き、地域の方々に障害のある方や事業所への理解を深める取り組みを行いました。

本年は、1名の退所、2名の入所があり、現員39名となりました。新しい仲間も作業所に慣れ、「ワークハウスに来て良かった」と安心して通所する姿が見られるようになっていきます。一人ひとりの思いや願いに寄り添う支援の質の充実、集団の中で働くことを通じての育ちを築いていくことを方針に掲げ取り組んできた1年でした。上京ワークハウスと、すてっぷ糸屋に分かれての実践も2年目となり、それぞれの集団の中で、互いを認め合える関係が出来てきました。一方、個別での対応が必要な仲間や加齢により体力面での衰えや生活をどう支えていくかなど支援の中身が多岐にわたり支援者側の質の向上が求められた1年でした。2月にオープンした2つ目のカフェも常連客から「休みの日は寂しい」などの声もいただき、地域の大切な場所となっています。就労を希望する仲間に対しては、障害者生活・就労支援センターを通じて企業実習の体験や、仲間の自治会でほっとはあとセンターより講師に来ていただき、就労について学ぶ場を作ってきました。就労に向けて企業で働いていた仲間が、休みがちとなり約1年間頑張った後、辞めてしまうこともあり、就労に対しての心構えや就労してからの支援のあり方を改めて学ぶ機会となりました。掃除や配食サービスなど施設外就労を通じ、地域の方への理解を深め、社会参加に努めました。

職員体制では、病欠者が出る中、アルバイト職員の補充を行い、支援にあたりました。

職場内研修では支援について、理念に基づき支援の中身をより深める論議を行うとともに、外部での研修にも参加し職員の質の向上に努めてきました。虐待についての意識向上に努めるとともに、ケース検討など実践を深める論議を行いました。また、第三者評価の受診、認証制度で外部からの指摘事項を受け、具体的な改善点が把握できました。

また、社会福祉法人の法改正で定款の変更、評議員会・理事会の役割が変わるなど、大きな変化に対応が必要な1年でした。社会保障分野における制度改革が押し進められている今、私たちの果たす役割に確信を持ち、より良い実践と経営の努力を行いながら全国の仲間や幅広い方々と手をつなぎ進んでいきましょう。

## 作業実績

- (1) 作業種目 軽作業（箱折り、ダイレクトメール、手芸用品袋詰め、など）  
配食サービス（総合生活支援センター聚楽の請負作業）  
堀川こぶしの里デイサービス前清掃  
（総合生活支援センター聚楽の請負作業）  
マンション清掃（聚楽興産）  
駐輪場・駐車場清掃  
営業（夏・冬・バレンタインの時期に事業所を廻り、物品販売）  
自主製品（牛乳パック再生名刺・ハガキ、廃油セッケン、縫製）  
蒸しまん・クッキー・ラスク製造・販売  
喫茶事業  
○手づくり蒸しまん&カフェ“まんまん堂”  
○まんまん堂 café 咲あん
- (2) 作業時間 5時間（AM9：30～PM3：30 内80分休憩）
- (3) 利用者工賃 月平均 14,571円

## 利用者に対する支援内容

### 作業内容

○施設外就労や出向の機会を設け、社会参加と労働への意欲向上。

#### 出向

ふれあい喫茶（COOP 二条店第1・第3金曜日）

喫茶“ぴあ”（金曜日 月2回）

仏具磨き（お彼岸）

営業活動（事業所を回りカタログ販売）

#### 施設外就労

介護事業所の配食及び事業所前の清掃、マンション清掃、駐輪場・駐車場清掃

#### 職場実習

障害者就業・生活支援センターを通じて、職場実習の取り組み（次年度へ継続）

### 就労の取り組み

・「福祉から雇用へ」事業を活用し就労するが、自己都合で退職。

## 作業以外の事業実績

- ① 自治会活動（上京ワークハウス・すてっぷ糸屋）第1水曜 午後～  
話し合い、役員選挙、係り活動、グループ別活動（月1回半日）

- ② 避難訓練 8月、2月の年2回実施。(通報・避難・消火器の使用)  
消防署より防災の取り組みに対して表彰を受ける。
- ③ 健康診断 第2中央病院にて実施、9月に2回に分けて実施  
歯科検診 6月に歯科センターより来所。歯磨き指導も実施
- ④ 宿泊実習 希望者を対象にすてっぷ糸屋にて実施。一人あたり上限年3回まで  
実施期間6月～9月 延べ利用者39名
- ⑤ うたごえ 指導者に来ていただき歌唱指導を受け、7月の上北うたごえまつりに参加
- ⑥ 療育の取り組み  
療育の取り組みを必要とする利用者を対象に月1回(グループに分けて)  
所外にて実施。大津科学館、琵琶湖博物館、バーベキュー、芋掘りなど
- ⑦ 余暇支援 サークル“すまいる”(ほぼ毎月、祝日を利用して希望者対象に実施)  
行先：男山ハイキング、梅小路公園、芦生山の家、ボウリングなど、  
6月・2月以外、実施。計10回。
- ⑧ 創作活動 月1回半日、希望者対象に絵画制作など実施。3月に“ぶらり嵐山”にて作品展“みてみて みてみ”を開催。

#### 利用者負担金

所外活動での飲み物・食事代などは実費

旅行積立金 月2,000円

給食の提供(希望者のみ) 毎週水曜日 400円

#### その他

- \*後援会活動 わくわくフェスタ(11月 6日(日)、元聚楽小学校にて)など
- \*家族会活動 新入所者歓迎会、合同懇親会、個別支援計画説明・指導方針・総括説明  
学習会(成年後見人について、亀岡作業所保護者会の取り組み(小林さん)  
きょうされんとは、)きょうされん全国大会、京都支部大会参加など
- \*つうしんの発行 作業所だより発行。発行部数1000~1200部。
- \*きょうされん活動
  - ・10月22日~23日 全国大会(熊本)への参加 仲間・家族・職員・理事
  - ・市内ブロック仲間の交流会に参加
  - ・署名、賛助会の取り組み

#### **指定特定相談支援事業**

今年度は、サービスの新規・更新時期に計34件の計画と30件のモニタリングを実施しました(別紙)。年度末始めに集中し、2件は計画が(案)のまま、確定版を出すことができませんでした。計画(案)が出せないことによる受給者証の未交付という事態には至りませんでした。区分認定の更新時期から徐々に誕生月に分散されていきますが、月平均7件(計画とモニタリング)の計画相談を円滑に実施していくことは、事務量も含めて厳しい状況です。業務の効率化、情報共有のための工夫・改善等の着手はまだ緒についたばかりです。計画作成では、一つ一つの視点にあてて、計画を吟味することはとても重要です。とく

本人の生活背景や障害の程度・特徴を理解（類推）し、本人の意向を汲み取り、合理的配慮の中身（支援の中身）を丁寧に作り上げるために、改めて学び、見つめなおす力をつける必要性を痛感します。また、わかりやすいプランを作ることも合理的配慮のひとつで検討すべき課題です。

本人や家族との面談、関係機関とのサービスに関わる情報共有や相談をすすめる中で、本人の生活全般にわたる実態把握とともに、支援区分の変更、支援内容の検討がすすみ、新たなサービスの開始やサービスの改善につながっています。一方で、相談支援活動はまだまだ部分的で、法人内外での連携や役割分担等課題も山積しています。

京都全体では、この3年間（H26年3月末）で、計画作成率は14%から90%に上昇していますが、そのうちセルフプランは30%を占めています。相談支援事業所は68ヶ所から190ヶ所に増えていますが、その実態は明らかではありません。研修に参加し、スキルアップとともに、相談支援の今後の方向性を見極めて、どう展開していくかが、重要な課題の一つとなっています。

## **平成28度 グループホーム“あっと”事業実績報告書**

定員	女性	4名					
入居者	女性	4名	平均年齢	41.5歳			
述べ利用者数	1189名	開所日数の合計	320日	1日平均利用者数	3.7名		
世話人体制	非常勤	6名（2016年現在）	週1~2回	隔週	日中支援など		
	常勤	1名（受け入れ準備、通院同行、夕方支援補助など）					

今年度は春に世話人の退職が続いて新しい世話人が次々と入り、世話人と仲間との関係性での積み上げが課題の年となりました。

世話人・支援者ともに日々の生活の中で仲間の思いを受け止めながら、改善に向けての工夫や支援する中での関わり方など、悩みながらも一緒に相談しながら支援を進めてきました。

その中では仲間と世話人の関係が上手くいかず、改善できないまま退職されることがありました。また、人的環境の変化の中で生活面でのこだわりが強くみられる仲間もいて対応の難しさもありますが、必要時に支援者が入ったり、時間・回数をかけながら関係を積み上げている途中です。仲間同士ではお互いのことが気になって時にトラブルになるものの、相手を思いやる気持ちもみられ、いざというときはチームワークを発揮する姿もあります。また、仲間が世話人を思いやり、助ける頼もしい場面もみられました。

健康面では、仲間の糖尿病による食事改善が必要となり、対応に迫られる形となりました。ドクターの診断に合わせ、厨房職員や現場職員、家族とも相談しながらし、また食事の注意事項として厨房職員に資料を作成してもらい世話人にも協力して食事の提供をしてもらっています。ただし糖尿病の食事提供に関しては、世話人へ今以上の提供を求めるのは限界かと感じます。

腰痛悪化の仲間には、食事・入浴の着脱など、自室以外ではイスに座って過ごしてもらおうようにし、またヒザの痛みのある仲間には座椅子に座布団を重ね、高くして座って食事を摂ってもらう形をとりました。体調不良やヒザ、腰の痛みなども日々訴えがあり来年度移転の予定ではありません。

すが、生活するうえでのハード面での早急な対応が必要です。

衛生面では、入浴の意識的声かけをし、世話人とやり取りしながらも何とか継続しています。歯みがきについては定着化せず、課題です。

余暇活動として外食へ出かけました。

#### ■世話人・生活支援員体制

4月当初は世話人が3人でスタート。5月・12月・3月にそれぞれ1名退職。7月、9月、11月、1月とそれぞれ1名ずつ採用としました。3月下旬より以前の世話人が復帰する予定です。

年度当初は泊まりの体制が取れず、担当だけではなく他の職員にも泊まってもらったり、世話人が来るまでの数時間を職員に入ってもらいながら何とかつないできましたが、勤務作成するうえで定着が難しく、困難さを感じました。

世話人会議は3回開催。日々の仲間の様子や支援上での悩みを出し合って話し合い、仲間の生活の向上はもとより世話人のメンタル面でのフォローを行ないました。

## 平成28年度 グループホーム“まある”事業実績報告書

定員 男性 4名

入居者 男性 4名 +体験入所

述べ利用者数 768名 (体験入居 172名)

開所日数の合計 308日 1日平均利用者数 2.5名

世話人体制 非常勤5名(2017年3月現在)週1回

常勤1名 管理者、受け入れ準備、通院同行など

#### ■入居者、生活支援者状況

今年度は11月、2月、3月と1名ずつ入居があり、開所2年半でやっと念願の定員4名となることができました。それまでもショート・体験入居が日々あったものの、続けて3名の入居となったので、もともといた仲間にとっても大きな変化と思われましたが、特に大きな混乱もなく過ごされています。1名は週3日からの利用ではじめ、まあるでの生活に慣れていくよう様子をみているところですが、生活での大きな変化からか円形脱毛症になってしまい、現在も治療中です。1名は仕事と休みの都合から週4回から始めています。

ショートステイの利用者もいる中ではありますが、部屋でゆっくり過ごしたり、世話人との会話を楽しむ姿もあり、日常での課題については少しずつ対応していきながら、これから4名での生活がはじまるところです。

生活面では入浴・身だしなみで支援が必要な仲間が見られ、世話人に支援してもらっていますが、家族にも確認しながら対応していくように進めました。

体調面では定期通院は職員が同行し、また日々の様子を見ながら体調の把握に努め、服薬管理、準備なども行ないました。また、備品の補充や、不定期ではありますがホーム内の掃除など行ないました。

## ■世話人・生活支援員体制

年度当初は世話人4名でスタート。8月、12月に1名ずつ退職あり、5月・9月・10月・1月に新採用。人数はそろっていますが、学生で授業の関係での曜日が合わず、勤務作成が困難でした。世話人会議は年3回行ない、主に入居者の様子、工夫や改善できるところを情報共有しながら統一した支援ができるように話し合いましたが、入居者が増えたことから検討する課題も出てきました。今一度、世話人としての支援とは何か、役割について話し合うことが必要です。夕食作り専門の方が、主に水・木・金で2月中旬より入ってもらえることになりました。

## 平成27度 ショートステイ・体験入居 “まある” 事業実績報告書

### ■実践面

ショートステイ・体験入居も開所して3年目となり、それぞれの過ごしが定着してきました。部屋でDVDやTVを観て過ごす仲間もいるが、食事作りや洗い物の手伝いのためエプロンを持参してくる仲間やCDを持ってきて世話人と聞いたり、同泊の仲間と世話人とで話しをして過ごしたりと、世話人との関わりを楽しみにしている仲間も見られました。

あわせて、家族の思い・用事からの利用もみられます。

3月よりホームの入居が埋まり、体験入居枠としての利用は中止となりました。ショート利用で1名のみでの受け入れとなることから、女性泊の日は世話人と同室での過ごしとなりました。

世話人へは引継ぎをして対応してもらってはいるが、荷物のミスや対応の不備などがあり、家族からの報告が上がったことがあったため、再度引き継ぎを行ない改善に努めました。

### ■運営面

今年度も月曜日・火曜日は女性、水曜日、木曜日、金曜日は男性の受け入れとしましたが、家庭の事情やまある入居に向けての練習のために1週間の利用も行ないました。練習のための1週間が自信となって入居につながりました。

毎月の定期利用者は7名で1泊～3泊の利用。2か月に1回連泊利用者が1名。不定期利用者は3名でした。利用延べ日数は月によりますが、平均月26日。

女性世話人が今年度も1名のみのため連泊で入ってもらったり、職員が泊まって対応しましたが、もう一人世話人を増やすか、もしくは世話人が連泊にならないような受け入れを考える必要があります。